我孫子市民図書館
秋のたより

令和８年10月27日発行

発行　我孫子市民図書館
〒270-1147
我孫子市若松 26 番地の４
電話　04-7184-1110

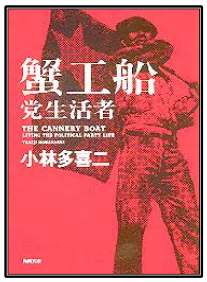


昭和の名作たち　昭和を振り返ろう Part2

昭和100年 1926――2026

昨年の秋のたよりでは、「昭和を振り返ろう」をテーマに、昭和の文化や社会に関する本をご紹介しました。今年も同じテーマのもと、昭和時代に名作を生み出した代表的な作家たちとその作品を一部、ご紹介します。

内閣官房「昭和 100 年」関連施策として行っています。▶



『蟹工船・党生活者』
小林　多喜二／著
KADOKAWA

『細雪』上・中・下　谷崎　潤一郎／著　新潮社
『羅生門・鼻・芋粥』　芥川　龍之介／著　KADOKAWA
『雪国』　川端　康成／著　岩波書店
『堕落論』　坂口　安吾／著　KADOKAWA
『人間失格』　太宰　治／著　KADOKAWA

『山月記・李陵』
中島　敦／著　岩波書店
『金閣寺』
三島　由紀夫／著　新潮社
『潮騒』三島　由紀夫／著　新潮社
『深い河（ディープ・リバー）』
遠藤　周作／著　講談社
『海と毒薬』遠藤　周作／著　新潮社



『伊豆の踊子』
川端　康成／著
新潮社

『暗夜行路』
志賀　直哉／著
新潮社





『点と線』松本　清張／著　文藝春秋

福岡県の香椎海岸で発見された男女の遺体。それには官僚の汚職が絡んでいた‥。
著者初めての長編推理小説。時刻表を使ったトリックとともに、舞台装置として、当時運行を開始したばかりの寝台特急「あさかぜ」が登場する。夜行長距離急行も登場し、新幹線が無い昭和時代の鉄道旅行を味わうことができる。刑事や犯人が使う電報などは時代を感じさせるが、IT全盛の今読んでも古びた感じがしないのは、変わることのない人間の欲望の本質を捉えているからではないだろうか。



『生きて行く私』上･下
宇野　千代／著
毎日新聞出版

『竜馬がゆく』1～8　司馬　遼太郎／著　文芸春秋
『坂の上の雲』1～8　司馬　遼太郎／著　文芸春秋
『青い壺』　有吉　佐和子／著　文藝春秋
『鬼平犯科帳』1～24　池波　正太郎／著　文藝春秋

『恍惚の人』　有吉　佐和子／著　新潮社



認知症の義父を残して、義母が急逝。仕事を理由に、どこか他人事の夫を横目に、共働きの妻が、義父を在宅介護し最期を見届けるまでを描く。
当時より高齢者福祉制度は改善されているものの、認知症により壊れていく義父に振り回されて疲弊し、自分たちの老後に思い悩む家族の姿など、介護に関する問題は変わらない部分も多い。誰もが直面する「老い」にどう向き合っていくのかを考えるきっかけになる。

昭和の名作は数多く、今回の紙面では紹介しきれなかった作家や本がたくさんあります。
アビスタ本館・布佐分館では、2026 年 11 月末頃まで、ご紹介した本も含め、昭和の名作たちを館内のコーナーに集めています。ご自身の“昭和の名作”を見つけてみてください。

かこさとしさん　生誕100周年！

今年は、昭和から平成にかけて活躍した絵本作家･かこさとしさんの生誕 100 周年にあたります。
昔も今も、大人も子どもも面白い！かこさんの名作をぜひご覧ください。
図書館には他にもかこさんの本がたくさんあります。



「からすのパンやさん」
かこさとし／作･絵
偕成社(EA カ)



「だるまちゃんとてんぐちゃん」
加古　里子／さく　え
福音館書店(EA カ)

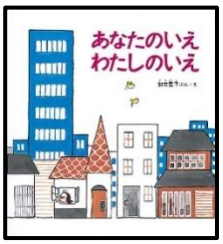
シリーズ1作目の「だるまちゃんとてんぐちゃん」や「からすのパンやさん」は出版から 60 年近く経っても変わらず子どもたちに愛され続けています。



「地球」
加古　里子／ぶん　え
福音館書店(EM カ)

地中や地上の様子が細かな絵で描かれています。季節の移ろいや動植物も巧みに描き込まれていて眺めているだけで面白い。解説を読んだり、索引をひいたり、色々な楽しみ方ができる絵本です。

「あなたのいえわたしのいえ」
加古　里子／ぶん･え　福音館書店(EMカ)



私達が普段何気なく暮らしている家には生きるための様々な工夫があることがわかる1冊。あなたの家はどんな家ですか？

加古里子（かこさとし）さん（1926～2018）は、工学博士号を持っている科学者でもあります。絵本作家と科学者の両方の目線から作られた科学絵本は、日常のちょっとした不思議を楽しく考えさせ、科学への興味に結びつけてくれます。